



文星觀

始

彦元坊撰

中村俊定文庫

文庫 18

215

1





病中記

昔保と酒のまのびりり酒のり酒保病の
あつてはくろの鍼のり酒のり酒保病の
のり酒のり酒のり酒のり酒保病の
のり酒のり酒のり酒のり酒保病の
のり酒のり酒のり酒のり酒保病の
のり酒のり酒のり酒のり酒保病の
のり酒のり酒のり酒のり酒保病の
のり酒のり酒のり酒のり酒保病の
のり酒のり酒のり酒のり酒保病の
のり酒のり酒のり酒のり酒保病の



江崎
八

文房はすまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの

すまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの
すまゝに月をこぼれしむるの

一 所々を以て其の善惡を知るに
 一 人の行為を以て其の善惡を知るに
 一 人の言葉を以て其の善惡を知るに
 一 人の行動を以て其の善惡を知るに
 一 人の心算を以て其の善惡を知るに
 一 人の情動を以て其の善惡を知るに
 一 人の徳性を以て其の善惡を知るに
 一 人の才力を以て其の善惡を知るに
 一 人の學問を以て其の善惡を知るに
 一 人の藝術を以て其の善惡を知るに
 一 人の職業を以て其の善惡を知るに
 一 人の生活を以て其の善惡を知るに
 一 人の死生を以て其の善惡を知るに
 一 人の道徳を以て其の善惡を知るに
 一 人の徳性を以て其の善惡を知るに
 一 人の才力を以て其の善惡を知るに
 一 人の學問を以て其の善惡を知るに
 一 人の藝術を以て其の善惡を知るに
 一 人の職業を以て其の善惡を知るに
 一 人の生活を以て其の善惡を知るに
 一 人の死生を以て其の善惡を知るに
 一 人の道徳を以て其の善惡を知るに

一 徳性の善惡を知るに
 一 才力の善惡を知るに
 一 學問の善惡を知るに
 一 藝術の善惡を知るに
 一 職業の善惡を知るに
 一 生活の善惡を知るに
 一 死生の善惡を知るに
 一 道徳の善惡を知るに

徳性

一 徳性の善惡を知るに
 一 才力の善惡を知るに
 一 學問の善惡を知るに
 一 藝術の善惡を知るに
 一 職業の善惡を知るに
 一 生活の善惡を知るに
 一 死生の善惡を知るに
 一 道徳の善惡を知るに

徳性

徳性の善惡を知るに

井

井

井

井

井

井

井

井

井

井

井

井

井

~~~~~

~~~~~

~~~~~

人

雑炊のちんちん

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


杉根の枝肉をさるるは竹をいふことなるをたの
 みの一類にこそ枝をいふは竹の葉も右方に匂ひありて
 真白なものを二式にも請をたけしとはせよあり
 といふことばのあらはるべきもあらずといふは枝の
 葉のほりまゝの枝葉のうらふかしくあり匂ひをた
 りといふていふことばのあらはるべきもあらず
 といふことばのあらはるべきもあらずといふは枝の
 葉のほりまゝの枝葉のうらふかしくあり匂ひをた

板木の指圍や達の枝石

けらゝのまゝは板ありてけらゝのまゝは板ありて
 けらゝのまゝは板ありてけらゝのまゝは板ありて
 けらゝのまゝは板ありてけらゝのまゝは板ありて

けらゝのまゝは板ありてけらゝのまゝは板ありて
 けらゝのまゝは板ありてけらゝのまゝは板ありて
 けらゝのまゝは板ありてけらゝのまゝは板ありて

けらゝのまゝは板ありてけらゝのまゝは板ありて
 けらゝのまゝは板ありてけらゝのまゝは板ありて
 けらゝのまゝは板ありてけらゝのまゝは板ありて

Main body of handwritten text on the right page, written in a cursive script.

Main body of handwritten text on the left page, written in a cursive script.

觀鑑

まのほろろとくまのふのり
まのほろろとくまのふのり
まのほろろとくまのふのり
まのほろろとくまのふのり
まのほろろとくまのふのり

東義坊とて二二名一辨一とて
二二名一辨一とて二二名一辨一

まのほろろとくまのふのり
まのほろろとくまのふのり

作のまのほろろとくまのふのり
まのほろろとくまのふのり
まのほろろとくまのふのり

觀鑑

作のまのほろろとくまのふのり
まのほろろとくまのふのり
まのほろろとくまのふのり
まのほろろとくまのふのり

まのほろろとくまのふのり
まのほろろとくまのふのり
まのほろろとくまのふのり

山崎

十一

初七日 友化表

北野達中

右記

まの月もくもくも月日

神の幸は極小極小 楽羽

いさよまのあはらうねて 六三

眼のいよよ海を望法 三岐

あさきんも十国十色の二弦位 栗八

こま〜〜ま〜〜まのま津 枕五

者評

徳くすくす〜〜〜やむの夕は春 六三

あさ色の枝とまむらね 柳八 栗八

ま〜〜〜ま〜〜〜や一七の 末月

二七日 右讀一欠

長長達中

所の鞍の付お〜〜柳八 有琴

葉ふ〜〜〜ま〜〜まの気浄 七柳

きりきりのしりしりきりきりきりきり
 田子しりしりしりしりしりしりしり
 物あひりりりりりりりりりりりり
 物あひりりりりりりりりりりりり
 後うりの後うりりりりりりりりりり
 ろんりのりりりりりりりりりりりり
 推るるるるるるるるるるるるるるる
 底表のとびりりりりりりりりりりり

おらぶ

きたとのうしりりりりりりりりりり
 月ふふふふふふふふふふふふふふ
 カリカリヤカリカリカリカリカリカリ
 くらりりりりりりりりりりりりりり
 くらりりりりりりりりりりりりりり
 文字のりりりりりりりりりりりりり
 どのをれりりりりりりりりりりりり

雪のふりしるはるの
花やうきあはれまてはるる

二十七日百詠一歌 岐阜連中

こゝの雪もはるる鳥

童年

雪鳥もひらひらるる音も

拾録よきよきあはれとあはれ

ふりしるはるる

うきうきとあはれとあはれ

清々しくあはれとあはれ

うきうきとあはれとあはれ

うきうきとあはれとあはれ

うきうきとあはれとあはれ

うきうきとあはれとあはれ

うきうきとあはれとあはれ

うきうきとあはれとあはれ

源いのおしとと大工流 史前
暮の日御もろかきあり 杜毫

名録

蓋とわらふあゆみ白く夜う都 柳因
散ふく柳の記念のふらしか 杜毫
月うくしとさきとさき 史前
城うくしとさきとさき 史前

柳うくしとさきとさき 柳二
あゆみとさきとさき 史前
天くしとさきとさき 史前
ふ味あきとさきとさき 史前
教ゆくとさきとさき 西三
作さの類も記さす 史前
さうとさきとさき 史前
あゆみとさきとさき 史前

の七日 寄信首尾

並ね連中

海に舟を乗せし日の

舟丁

舟に月を乗せし日の

舟のまゝに舟を乗せし日の

舟を乗せし日の

舟に舟を乗せし日の

舟のまゝに舟を乗せし日の

舟に舟を乗せし日の

舟のまゝに舟を乗せし日の

舟に舟を乗せし日の

舟のまゝに舟を乗せし日の

舟に舟を乗せし日の

舟のまゝに舟を乗せし日の

舟

舟に舟を乗せし日の

舟のまゝに舟を乗せし日の

こころしづくふわやまはる　海常
 さびしくもむらさきのささけま　洞友
 柳も海に波の反折　　　　　桐屋
 柳のふやむと高の敵るれ　牧之
 ありまひさしちかひほまきり　聖徳
 ちかむす強しわあ　至の中　標梅
 実ましむじと作し藤のくわは　竹儿
 ささくふゆはしちありるあま　楚疏

五十六日 百韻首尾六

大政連中

まよからんのかひのりやまはら　三位
 しくらぬのてんははの春　東妻
 遠くがまも山鳥まよひまきり　依五
 ちかむと鳥まほまきりまきり　柳下
 草のちかよふは後とまよへる人　友什
 かりは　桜のまよへる　飛鳥　あ鳥

御本様も梅の心ならずと御月ある 字推

一ノノ心ならずと御入の心くれ 格夕

白粉の心持難とる心梅の心 丁址

舟波の心持の心ならずとる 落由

雨乞の心持の心ならずとる 格七

五舟の心持の心ならずとる 伝布

一ノノ心持の心ならずとる 七有

一ノノ心持の心ならずとる 格七

あつちの心持の心ならずとる 伝次
あつちの心持の心ならずとる 伝次

名簿

あつちの心持の心ならずとる 伴次

あつちの心持の心ならずとる 格五

あつちの心持の心ならずとる 落由

あつちの心持の心ならずとる 格夕

あつちの心持の心ならずとる 格下

ふしきく家のあひかりの棧 今鳥
あひかりのあひかりの棧 右竹
あひかりのあひかりの棧 菊逢
あひかりのあひかりの棧 丁柱
あひかりのあひかりの棧 公布
あひかりのあひかりの棧 七者
あひかりのあひかりの棧 松者
あひかりのあひかりの棧 鷹の

あひかりのあひかりの棧 松者

あひかりのあひかりの棧

伊尾中

松者

あひかりのあひかりの棧 松者
あひかりのあひかりの棧 松者
あひかりのあひかりの棧 松者
あひかりのあひかりの棧 松者
あひかりのあひかりの棧 松者

位はくはくしり、くはくしり、くはくしり、くはくしり、
あふくしり、くはくしり、くはくしり、くはくしり、
あふくしり、くはくしり、くはくしり、くはくしり、
あふくしり、くはくしり、くはくしり、くはくしり、

各詠

あふくしり、くはくしり、くはくしり、くはくしり、
あふくしり、くはくしり、くはくしり、くはくしり、
あふくしり、くはくしり、くはくしり、くはくしり、
あふくしり、くはくしり、くはくしり、くはくしり、

あふくしり、くはくしり、くはくしり、くはくしり、
あふくしり、くはくしり、くはくしり、くはくしり、
あふくしり、くはくしり、くはくしり、くはくしり、
あふくしり、くはくしり、くはくしり、くはくしり、

文意のあふくしり、
あふくしり、くはくしり、くはくしり、
あふくしり、くはくしり、くはくしり、

あふくしり、くはくしり、くはくしり、くはくしり、
あふくしり、くはくしり、くはくしり、くはくしり、
あふくしり、くはくしり、くはくしり、くはくしり、
あふくしり、くはくしり、くはくしり、くはくしり、

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

運翹のむやみ〜〜〜佛 奏の
 極木の山嶽も〜〜〜木の香 此柳
 藤も角あ〜〜〜木の香 杖の
 香も〜〜〜木の香 又魁
 所の隈も〜〜〜木の香 立松
 ん〜〜〜木の香 赤巴
 ち〜〜〜木の香 双葉
 喜柳の香〜〜〜木の香 竹葉
 香の〜〜〜木の香 竹葉

りけ〜〜〜木の香 運〜

竹葉集連中

藤も〜〜〜木の香 観公
 蕙も〜〜〜木の香 長傳
 柳の香〜〜〜木の香 此角
 藤も〜〜〜木の香 二考
 香も〜〜〜木の香 其振

おのゝとものえあしした師の家長
きよとあつして相らり候とておのゝ
おのゝとものえあしした師の家長
おのゝとものえあしした師の家長

水石

おのゝとものえあしした師の家長

ちりちり茶漬の靈法をばしり
そのまの候月あや 尾梅

行言先師のほく秘入とておのゝともの
おのゝとものえあしした師の家長
おのゝとものえあしした師の家長

おのゝとものえあしした師の家長

おのゝとものえあしした師の家長

おのゝとものえあしした師の家長

おのゝとものえあしした師の家長

おのゝとものえあしした師の家長
おのゝとものえあしした師の家長
おのゝとものえあしした師の家長
おのゝとものえあしした師の家長
おのゝとものえあしした師の家長

心之州中

心之州中
心之州中
心之州中
心之州中
心之州中
心之州中
心之州中
心之州中
心之州中
心之州中

心之州中

心之州中

心之州中

心之州中

心之州中
心之州中
心之州中
心之州中
心之州中
心之州中
心之州中
心之州中
心之州中
心之州中

文海

酒跡酒跡 入口入口 松枝松枝 滝月滝月 榎方榎方 言幸言幸 里松里松 木乙木乙

柳柳 柳柳 柳柳 柳柳

柳柳

柳柳 柳柳 柳柳 柳柳 柳柳

停筆

一十三年

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

あはれなる人々の御用をなすはるる御用

あはれなる人々の御用をなすはるる御用 杉

御用をなすはるる御用

御用をなすはるる御用 杉

あはれなる人々の御用をなすはるる御用

あはれなる人々の御用をなすはるる御用 杉

あはれなる人々の御用をなすはるる御用

あはれなる人々の御用をなすはるる御用

あはれなる人々の御用をなすはるる御用 杉

あはれなる人々の御用をなすはるる御用 杉

あはれなる人々の御用をなすはるる御用 杉

あはれなる人々の御用をなすはるる御用 杉

あはれなる人々の御用をなすはるる御用 杉

あはれなる人々の御用をなすはるる御用 杉

あはれなる人々の御用をなすはるる御用 杉

あはれなる人々の御用をなすはるる御用 杉

尾張

名古を連中

わさの海にさかすまのこゝろ

已静

さかすまのこゝろと海のこゝろ

已静

さかすまのこゝろと海のこゝろ
さかすまのこゝろと海のこゝろ
さかすまのこゝろと海のこゝろ

さかすまのこゝろと海のこゝろ

さかすまのこゝろと海のこゝろ

子鳥を連中

松平のこゝろ

さかすまのこゝろ

さかすま

丁校

松平のこゝろと海のこゝろ

さかすまのこゝろと海のこゝろ

さかすま

鳥中

さかすまのこゝろと海のこゝろ

さかすまのこゝろと海のこゝろ

丁校

松平

松平

1345

伊しんく〜〜〜〜〜

比誰

く日平春〜〜〜〜

比誰

1346

あさき〜〜〜〜〜

比誰

月よ〜〜〜〜〜

比誰

あさき〜〜〜〜〜

比誰

鐵〜〜〜〜〜

比誰

移〜〜〜〜〜

丁牧

中〜〜〜〜〜

比誰

文〜〜〜〜〜

比誰

顔〜〜〜〜〜

比誰

1347

彦を〜〜〜〜〜

比誰

伊治の伊〜〜〜〜

比誰

東京の梅はあけ梅と云ふ
 女
 梅はあけ梅と云ふ
 七日の梅はあけ梅
 二月の梅はあけ梅
 花はあけ梅

梅はあけ梅と云ふ
 梅はあけ梅と云ふ
 梅はあけ梅と云ふ

梅はあけ梅と云ふ 五月の梅はあけ梅

梅はあけ梅と云ふ
 梅はあけ梅と云ふ
 梅はあけ梅と云ふ

梅はあけ梅と云ふ 巴産

飛騨

心算と陣の中

花七

其の

くもくやちる。そ せく梅の心

深き屋よ枯葉の涙くらひ 慈恵

の押し活けのほもすこしらへ 布流

ちりちりあよきねく哀乃 雨乞

あついな月を離れもくく 中水

閉子ともくく白雲冷く 牛前

花右

るえ

子ゆかやふよふくわ 新入

果てしなくもあふ 布流

あつし絵の心とくく 牛前

けし自のさくさく 慈恵

あつし梅くくあつし 慈恵

くくくくくくくく 牛前

月九

舊の初月 草の生るに 曉月

奉る

むらさきの鳥のさき 午有

あつらひの結しとよよみおくれ 善次

ふたばをならぬ 深の浅文 松葉

まねのふらふらとくちくち 後 菊

こゝろと宿とあけつて 春の初 布衣

月右

あつらひとあつらひの結しとよよみおくれ 月

奉る

けしきもさきとくちくちの青 善次

あつらひの結しとよよみおくれ 善次

あつらひの結しとよよみおくれ 善次

あつらひの結しとよよみおくれ 善次

あつらひの結しとよよみおくれ 善次

文同上

社三

長師不孝の何れかといふにけしきあるまじき
頃とて一山をよからくありと法王の
うしち二ふとある條ありの二封符あり
まのありしやうとありしやうの二條と
自他とさしゆくはふりてさしゆくは
さふさふとさしゆくはふりてさしゆく
悲式滅法しつてさしゆくはふりて
在世の類をすおもはるるまじきと

かみこし

あおね

47

指さしよりのけしきありしやうと

指さしよりのけしきありしやうと

くはあつたあつたの離つて
清しきあつたあつたの
あつたあつたのあつたあつたの
あつたあつたのあつたあつたの

あおね

かみこし

あつたあつたのあつたあつたの

あつたあつたのあつたあつたの

あつたあつたの

あつたあつたの

竹細のしほささるるしほけな 一鳥
和春の白くさくさく不即ぬ 喜作
あもららさくさくのら七編草水 善次
らら梅の川と花影を白く水 赤深
涅槃舎やあつたさ虫のくさくさ 文圭
近風の抱きてゆく柳の影 知色
春のしほささるるくのはらさくさく 益田 久推
けそくさくさくさくさくさくさく 吟味

急はくさくさくさくさくさくさく 車水
藤けしと糸さくさくさくさくさく 布衣
帝くさくさくさくさくさくさく 寸光
おさくさくさくさくさくさくさく 牛有
あけやあけさくさくさくさくさく 建意

天竺山
天竺山

